



校舎の周りに、水色の植木鉢が所せましと並んでいます。低学年の子どもたちが熱心に育てている、朝顔やミニトマトです。

同じ時期に世話を始めましたが、ペットボトルで水やりをしている、育ての親(?)の苦勞はつきないようです。「葉っぱがしわしわになっちゃった」「ミニトマトの花の数が少ない」などのお悩み相談をたくさんいただきます。一方で、「こんなに背が高くなった」「つるが長く伸びた」など、嬉しそうに報告してくれます。

一つひとつの苗は、葉の数や色、背の高さなど様々です。決して、言葉を発することはありませんが、育ての親の愛情を浴びて、「きれいな花を咲かせよう」「おいしい実をならせよう」と、太陽の光を浴び、水を吸収し、生長し続けています。

小さな種や苗から、大きく育っていこうとする、日々の変化や生長の様子を学ぶとともに、生命の不思議さや、大切さ、尊さに気づき、一人ひとりの成長の糧としていってほしいと願っています。

私も、子どもたちの姿や、大きくなっていく朝顔やミニトマトから、毎日、色々なことを考えさせられ、たくさんのことを学ばせてもらっています。



先月号で、「大和市の梅雨入りももう間もなくのようです」とお伝えしましたが、その後6月14日になってから、梅雨入りしました。ここ10年で、もっとも遅い梅雨入りだそうです。それに合わせて、急に蒸し暑い日が訪れてきました。学校では、その日の気温や湿度に合わせて空調の調整を行っており、子どもたちが快適に学習できるように努めています。



今月も、児童全員が笑顔いっぱい、楽しく過ごす学校づくりに努めてまいります。

(校長 板坂 和明)

恵みの雨が降り注ぐ梅雨を迎え、蒸し暑くなってきました。木々の葉の眩いばかりの青々とした生長に夏の訪れを感じます。

何度も消しては書き消しては書きを繰り返す姿、「上手に書けた!」と満面の笑み、受け持っている2年生の書写の授業の冒頭は、名前を書く学習から始めています。お家の方の願いや想いの詰まった名前を心を込め丁寧に書くこと、それは自分を大切にすること、そして愛情を注いでくれる家族を大切にすることだと、教員生活で常に子どもたちに伝えていきます。また、文字は心を表す鏡だということも伝えていきます。「正しい形・中心を守る・同じ大きさ」等の共通のめあて、そして、前回の学習を振り返り、「『お』の点の位置・『き』の横角の斜めの角度」等、各文字の各自のめあてをもって真剣に取り組んでいます。日に日に上達する名前の文字は、子どもたちの成長の表われです。子どもたちの誇らしげな顔とともに、何だか名前の文字が胸を張っているようにさえ見えます。



各自が己を見つめ、課題を見出し、主体的に学習に取り組む態度を養うことは、学校教育において、生涯学習の基盤を培うという観点から目標として掲げていることの一つです。名前を書くという当たり前の活動からの小さな積み重ねですが、自分や家族を大切に想う気持ちを育むとともに、未来に繋がる力の一助になったらと願いながら、子どもたちと向き合っています。

木々の生長と子どもたちの成長、どちらも楽しみな日々です。

(教頭 小林 美紀)

